

平成 25 年 度 事 業 報 告 書

法人の名称 特定非営利活動法人 アーモンド コミュニティ ネットワーク

1 事業の成果

2012年11月NPO法人設立後、一年四ヶ月が経過し、北山田駅エキニワビルにある「拠点 あ・る・く」では、「傾聴活動」を主軸としたさまざまな社会福祉支援事業を週5日以上運営する体制となり事業の安定化が達成できた。

6月「思春期セミナー」（都筑MYプラザ）、8,9月「引きこもり地域理解促進事業」（神奈川県立青少年センター）の共催事業を終えて、不登校や引きこもり問題で法人の相談事業につながる親や青少年が増えた。また当事者支援の「問題を抱える青少年のための‘わかものあ・る・く’」「ACN企画室‘ぶいぶい’」に参加した10代～30代の青少年は引きこもり、ニート、不登校状態から脱して、年度末までに進学や就労やボランティア活動等の社会的活動につながった。また平成26年度も法人は都筑MYプラザ共催「思春期セミナー」と神奈川県立青少年センター共催「引きこもり地域理解促進事業」を継続して開催する。

今年度は神奈川県知事からの推薦を得て、ニッセイ財団から「児童・少年の健全育成助成」を受け、平成26年度夏には助成企画活動「不登校の児童・青少年への支援活動」（ACN子ども放送局活動）を実施する。

さらに、法人理事長は横浜市こども青少年局青少年相談センターからの依頼で、家族対象支援として相談者（親）を対象とした「傾聴セミナー」を教えた。当センターから好評を得て、平成26年度も依頼を受け、複数回を継続して担当していく。

特記すべき成果は、法人設立と同時に開始した北山田法人拠点あ・る・くでの、《問題を抱える青少年（16歳～20代）のための「傾聴によるこころの支援、学習支援、居場所支援」事業‘わかものあ・る・く’》（不登校、引きこもり、発達障がい等の支援活動）の運営経験を生かして、横浜市「都筑区寄り添い型学習等支援事業」の公募に事業提案をする。選考を受けて事業受託となり、平成26年1月より運営を開始した。これにより行政と連携して複合的な困難な問題（生活保護、外国籍家庭、ひとり親、不登校問題など）を抱える小・中学生への支援を早期に開始できるようになった。この協働事業により都筑区役所、地域の小中学校、専門機関との連携もさらに深まっている。また法人としての経営の安定化をはかることができた。

北山田の法人拠点では、山田富士公園の緑に面したエキニワビル1階の静かな明るい環境で心地よい居場所運営を継続した。さまざまな問題を抱えた地域住民に対して問題軽減のための「傾聴スタッフによるこころの支援活動」を、「傾聴コミュニティカフェ」活動を基盤に、「子育て支援」、「外国につながる親子の支援」、「高齢者が担い手として参加する支援活動」等として展開している。さらに、「横浜に聴くツアー」、「障がいと傾聴」、「アートワークショップ」、「ACN企画室ぶいぶい」のいずれの活動も参加者の増加と開催回数の増加をはかることができた。

①子育て支援の推進等に関する事業

子育て支援「子育てあ・る・く」

発達の障がいなどの悩みを抱える親や転入したばかりの親子が、地域の子育て支援拠点や友人からの紹介で参加することが多かった。子育て不安を軽減するための傾聴ワーカーによる支援活動として、週2日の「傾聴コミュニティカフェ」の中で展開している。

②青少年の健やかな成長の推進等に関する事業

ア 「問題を抱える青少年（16歳～20代）のための支援事業‘わかものあ・る・く’」

「青少年の居場所づくり事業」と「傾聴によるこころの支援事業」と「学びなおしの学習支援

事業」から成る支援活動。不登校経験者、中途退学者、ニート、ひきこもり経験者の参加が多く、就労や進学に進むためのサポート事業として運営している。

イ 「思春期問題、不登校問題からの道しるべ～MY Café」

「思春期セミナー」や「傾聴勉強会」の参加者で子どもの問題を抱えた親からの相談が多い。当事者の子どもが青少年支援につながるための親の入口となっている。傾聴ができる新たな担い手をさらに増員し、横浜市青年局、横浜市ユースプラザ、神奈川県立青少年センター、他での研修にも積極的に参加し、スタッフは青少年問題への理解を深めている。

ウ 「子どもから青少年、大人のためのアート・ワークショップ」

イタリア在住のイラストレーター（法人会員）の協力で、今年はコラージュからアニメーション制作を実施した。現在、アニメーション作品はインターネットで動画配信されている。参加者は10～70代の男女で、引きこもっていた青年やニートの青年も参加した。

エ 新規事業として、横浜市「都筑区寄り添い型学習等支援事業」（小中学生対象）の事業受託となり、平成26年1月より運営を開始した。これにより行政と連携して複合的な困難な問題（生活保護、外国籍家庭、ひとり親、不登校問題など）を抱える小・中学生への支援を早期に開始できるようになった。この協働事業により都筑区役所、地域の小中学校、専門機関との連携もさらに深まっている。

③多文化共生の推進等に関する事業

外国につながる親子の支援「多文化共生コミュニティ～TCKs Green House」

毎月1回、北山田拠点での居場所支援活動を展開している。国際結婚をしている当事者の会員が代表となり、父親参加の活動も実施している。参加者の国籍は7カ国以上となる。

④障がい者支援の推進等に関する事業

「多様性、個性、障がいを支え育てるための傾聴セミナー」

年1回の定期開催となっている。さまざまな障がいのある人への理解を深めるために、当事者である会員と共に取り組んでいる。

⑤高齢者支援の推進等に関する事業

「高齢者と異世代の交流～傾聴コミュニティカフェ活動」

週2日の「傾聴コミュニティカフェ活動」は、子育て支援活動に参加する赤ちゃんと若い親世代と高齢者世代スタッフの異世代交流の居場所となっている。

⑥コミュニティ活動の推進等に関する事業

「横浜に聴くツアー」

今年も新たなツアーコースでの開催となり、昨年の参加者の男女のリピーター（20代～70代）とともに、今年度は新たに外国籍の参加者が加わった。コミュニティ活性化として参加者の層と幅が拡大している。

⑦上記の事業に関連する教育・学習・研修・啓発・相談に関する事業

「傾聴セミナー」

傾聴の技術を学ぶとともに、個別の問題を抱える「生きづらさを抱えた人を支えるための傾聴」について学んだ。今年度から、傾聴のできる支援者となるための「ACN 傾聴ワーカー育成プログラム」作成に向けての準備を開始した。

⑧その他この法人の目的を達成するために必要な諸事業

ア「こころを聴こう祭り」

法人のミッション「『相手の話をより良く聴くこと』『傾聴活動』を土台とした支援事業によ

って、共生の社会と平和なコミュニティの実現につとめること」をひろく伝えるためと、傾聴に興味のある人と会員相互の交流をはかる目的で毎年開催している。今年度は参加者に青少年層が加わった。

イ「さくら祭り」

山田富士公園を舞台に、北山田商業振興会（主催）、北山田町内会・山田富士公園愛護会（共催）の地域イベントの日時に合わせて、拠点あ・る・くにて4月に「さくらのカード制作アートワークショップ」を開催した。地域住民と会員の相互交流としてとても良い効果があり、特に20～30代の会員がさらに法人の活動に参画するきっかけとなった。

ウ『青少年サポート～わかものあ・る・く～傾聴セミナー&パネルディスカッション』

（神奈川県立青少年センター協働事業「平成25年度ひきこもり地域理解促進事業」）

法人としての事業提案が、「青少年のひきこもりや不登校等の問題に対し広く県民への啓発や地域住民の理解促進につながり、青少年センターが協働して実施することにより、その成果を高めることができるもの」として認められ、神奈川県立青少年センターの共催で開催した。

内容：子どもの不登校や引きこもりの相談を親から受けてきた中で、思春期から青年期にかけて社会に出ていくことが難しくなっていく時、当事者が出て行き易い居場所や活動を地域社会に増やすためには、地域社会で居場所活動や支援活動を担っている複数の組織が繋がって連携していることが必要であると考えに至った。講師として緑区のNPO法人グリーンママの理事長 松岡美子氏と都筑区のNPO法人五つのパンの理事 岩永敏朗氏を招き、当法人理事長と共にそれぞれのユニークな活動をどのように青少年支援に生かしていけるかをテーマにパネルディスカッションを実施した。また不登校やニートだった当事者の青年たち数名が初めてマイクを取って、会場で自分の経験を語った。参加者がそれぞれの抱える問題や活動を一緒に話し合い、互いを傾聴し合うことで、問題を抱えた親子に安心のコミュニティと人間関係を与え、法人の活動に足を運ぶことで新たな社会体験と人間関係の構築につながった。この事業後、参加者が進学や就労等の活動につながったことは大きな成果であった。神奈川県立青少年センターとは、平成26年度も同じ共催事業を開催することになった。

エ「ACN 企画室 ぶいぶい」

ウの事業に参加した10代後半～20代以上の会員の「傾聴活動」「コミュニケーション理解活動」として開始した。平日の夜に拠点あ・る・くにて、法人会員（カウンセラー）がファシリテータとなり、当事者の青年とコミュニケーションワークショップや交流イベントを運営した。

2 事業内容

（1） 特定非営利活動に係る事業

① 子育て支援の推進等に関する事業

「子育てあ・る・く」事業

- ・内 容 保護者が心の不安をかかえ孤立することなく安心して子育てが出来るよう、傾聴で心を支え地域住民との交流をはかり地域社会と結びついた子育て支援を実施。1月より始まった傾聴コミュニティカフェで異世代の交流も推進。子ども発達の問題や家族問題等を抱えた人を支え、相談機関等も紹介する。
- ・日 時 通年
- ・場 所 NPO 法人拠点（都筑区北山田）
- ・従事者人員 5人
- ・受益対象者 0歳～未就学児 60人
- ・支出額 500,565円

② 青少年の健やかな成長の推進等に関する事業

ア 「問題を抱える青少年のための《傾聴によるこころの支援、学習支援、居場所支援》事業 ‘わかものあ・る・く’」（16歳（高校学齢期）～20代対象）

- ・内 容 ころの安らぐ居場所のない青少年のために、傾聴のサポートによる居場所支援、学習支援、相談支援、就労支援等を行う。引きこもり、ニート、不登校問題。
- ・日 時 通年
- ・場 所 NPO 法人拠点（都筑区北山田）
- ・従事者人員 4 人
- ・受益対象者 16 歳～20 歳代の青少年。落ち着いた環境で自分のペースを取り戻したい青少年。学校や仕事に進む準備を始めたい青少年。63 人
- ・支出額 485,397 円

イ 「思春期問題、不登校問題からの道しるべ～MY Café」事業

- ・内 容 問題を抱えた親が出てきて安心して話せる場を作り、同世代やシニア世代の担い手が悩みを傾聴し、学校や専門機関の情報提供をする。必要に応じて心理カウンセラー（法人理事長）による個別の相談も行う。思春期、不登校、登校しぶり、登園しぶりの子を持つ家族対象の広場活動
- ・日 時 通年
- ・場 所 横浜市都筑区内
- ・従事者人員 5 人
- ・受益対象者 学校での問題、青少年の思春期問題、不登校問題をかかえる保護者 24 人
- ・支出額 36,542 円

ウ 「子どもから青少年、大人のためのアート・ワークショップ」事業

- ・内 容 ACN 会員のアーティストの指導で、傾聴をテーマとしたアート作品の制作を行う。ひきこもりがちな青少年が参加できる場としても企画運営。青少年と協力して開催する地域住民を対象とした「傾聴とアートのワークショップ」講師はイタリア在住のイラストレーター、絵本作家の法人会員。
- ・日 時 通年
- ・場 所 横浜市都筑区内
- ・従事者人員 3 人
- ・受益対象者 子どもから青少年、成人、高齢者(10代～70代) 59名
- ・支出額 52,994 円

エ 横浜市委託事業「都筑区寄り添い型学習等支援事業 ‘いっしょに あ・る・く’」

- ・内 容 都筑区役所子ども家庭支援課、保護課との協働事業、平成 26 年 1 月 6 日より開始。学習支援、居場所支援、傾聴によるころの支援、生活支援を区役所が申込みを受けた小中学生を対象に、困難な世帯の高校進学や就労を支える目的で実施している。
- ・日 時 月曜日～金曜日 13 時～20 時
- ・場 所 NPO 法人拠点（都筑区北山田）
- ・従事者人員 7 人
- ・受益対象者 困難な問題（生活保護、外国籍家庭、ひとり親、不登校問題など）を抱える小・中学生とその家族 44 人（今年度は 1 月～3 月の 3 ヶ月間）
- ・支出額 2,265,648 円

③ 多文化共生の推進等に関する事業

「多文化共生コミュニティ～TCKs Green House」

- ・内 容 国際結婚や移民等で外国につながる人、家族と多文化多言語背景にある子どもと親のための広場事業。日本のグローバル化による地域での多文化・多言語環境での子育てを「傾聴によるころの支援」で行なう。心理カウンセラーによる相談

支援も実施。

- ・日 時 通年
- ・場 所 横浜市都筑区内
- ・従事者人員 2人
- ・受益対象者 外国につながる親と子・国際結婚をしている親 90人
- ・支出額 0円

④ 障がい者支援の推進等に関する事業

「多様性、個性、障がいを支え育てるための傾聴セミナー」

- ・内 容 障がいのある人とその家族への傾聴によるこころの支援としてセミナーを開催。「傾聴」を学んだ障がいのある当事者の会員もセミナーの担い手をつとめる。
- ・日 時 通年
- ・場 所 横浜市内
- ・従事者人員 5人
- ・受益対象者 障がいのある人とその家族、支援者、子育て中の親 16人
- ・支出額 0円

⑤ 高齢者支援の推進等に関する事業

「高齢者と異世代の交流～傾聴コミュニティカフェ活動」

- ・内 容 法人の拠点あ・る・くでの、高齢者の持つ技能や力を引き出し、地域で活躍する場を創出し、人間関係をささえ、異世代との交流をはかる目的の傾聴コミュニティカフェ活動
- ・日 時 通年
- ・場 所 NPO 法人の拠点（都筑区北山田）
- ・従事者人員 3人
- ・受益対象者 高齢者と異世代の地域住民（乳児から70代）85人
- ・支出額 170,782円

⑥ コミュニティ活動の推進等に関する事業

「横浜に聴くツアー」

- ・内 容 法人の米国人理事（日本歴史学者）の案内で横浜の歴史から学ぶ。日常的な環境をじっくり視ながら、新しいことを発見し、住む環境を新しく味わって理解する。「傾聴」の手法をもって、講義とツアーで構成。また、参加者同士が相互に傾聴しあい理解を深めあうことで、自分たちの住むコミュニティへの意識が変わる。
- ・日 時 通年
- ・場 所 横浜市各所
- ・従事者人員 3人
- ・受益対象者 コミュニティ活動に興味のある地域住民10代から70代 43人
- ・支出額 0円

⑦ 上記の事業に関連する教育・学習・研修・啓発・相談に関する事業

「傾聴セミナー」

- ・内 容 「傾聴」による支援活動の効果と意義を伝える目的のセミナー
- ・日 時 3月
- ・場 所 横浜市都筑区内
- ・従事者人員 4人
- ・受益対象者 傾聴に興味のある法人会員と地域住民20代から70代 27人

・支出額 0円

⑧その他この法人の目的を達成するために必要な諸事業

ア 「こころを聴こう祭り」

- ・内容 法人の活動をひろく知らせる目的と会員相互の交流をはかる行事。
- ・日時 11月
- ・場所 横浜市都筑区内
- ・従事者人員 10人
- ・受益対象者 傾聴に興味のある法人会員と地域住民 20代から70代 40人
- ・支出額 22,297円

イ 「さくら祭り」

- ・内容 北山田の山田富士公園の「さくら祭り」の時期に合わせた地域住民へ向けたコミュニティ活性化と地域住民と会員の相互交流イベント
- ・日時 4月
- ・場所 NPO法人拠点（都筑区北山田）
- ・従事者人員 8人
- ・受益対象者 法人会員と地域住民 10代～70代 18名
- ・支出額 18,669円

ウ 青少年サポート～傾聴セミナー&パネルディスカッション

「神奈川県立青少年センター協働事業「平成25年度ひきこもり地域理解促進事業」

- ・内容 当事者とその家族が支え合い安心できる人間関係と居場所につながることで、「つながることでひろがろう」のテーマで、それを支えていく地域のNPO法人の具体的な連携体制の構築が目的である。ひきこもり問題等を抱えて、生きづらさを抱えている青少年とその家族に向けたセミナー。参加者は傾聴の態度と方法をもって、抱えている問題を分かち合う。社会体験や進学や就労に向かうヒントやきっかけ作りとする。
- ・日時 8月と9月
- ・場所 横浜市都筑区内
- ・従事者人員 8人
- ・受益対象者 ひきこもり問題を抱える家族と参加できた青少年、ひきこもり問題の支援者、民生委員、児童委員、近隣地域で活動しているNPO、福祉施設、障がい者施設の職員、他 56人
- ・支出額 12,668円

エ 「ACN企画室ぶいぶい」

- ・内容 平日の夜に、法人会員がファシリテータとなり青年が中心となって講座やイベントを企画する。10代～20代以上の会員が中心となつての「傾聴活動」として展開する。内容：①コミュニケーションワークショップ ②イベント・グループ活動
- ・場所 NPO法人拠点（都筑区北山田）
- ・従事者人員 3人
- ・受益対象者 コミュニケーションに関する理解を深めたいと考えている人。10代後半～50代の幅広い世代 60人
- ・支出額 75,645円